

# BKCライスポールセミナー2015

第4クール〈共通テーマ〉

## 安全・安心社会 の構築に向けて ～先人の知恵に学ぶ～

参加費無料(おにぎり・お茶付き)

日時 毎週金曜日12:20-12:50

会場 立命館大学びわこ・くさつキャンパス  
フォレストハウスF104

共催 立命館大学総合科学技術研究機構  
立命館大学BKC社系研究機構  
立命館グローバル・イノベーション研究機構



Photo by mysienne

**R** 立命館大学 BKCリサーチオフィス  
〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1  
BKCライスポールセミナー事務局  
TEL 077-561-2655  
RITSUMEIKAN

RITSUMEIKAN

RITSUMEIKAN UNIVERSITY  
RESEARCH ORGANIZATION OF  
SCIENCE AND TECHNOLOGY

RITSUMEIKAN  
GLOBAL INNOVATION  
RESEARCH  
ORGANIZATION  
R-GIRO

様々な分野の若手研究者が、各クールの共通テーマに沿って先端的で興味深い取り組みを発表します。発表内容を踏まえたフリーなディスカッションを通して、互いの理解を深め、この機会にみなさんの「研究」や「学び」に生かしませんか!

11/13 FRI 12:20-12:50

平岡 伸隆 [立命館大学総合科学技術研究機構 / 専門研究員]

### 超音波土壌水分水位測定技術による 土砂災害予測

日本では年間1000件を超える土砂災害が発生しており、毎年、経済的・人的に甚大な被害が出ています。人的被害を最小限に抑えるためには、斜面崩壊の発生予測に基づいた避難が有効です。そこで、降雨による斜面崩壊の発生を予測するために、斜面内の水分量や地下水位を計測する技術が研究されてきました。今回の発表では、日本における土砂災害の実態と、新たに開発した超音波を使った土壌内水分と地下水位の測定技術について紹介いたします。

11/20 FRI 12:20-12:50

岡崎 滋樹 [経済学研究科 / 博士課程後期課程]

### 批判的視点で読み解く政府資料

現在、メディアの報道では頻繁に「格差社会」や「若年貧困」、「老後不安」などの社会問題が取り上げられています。そして、これら社会問題に関連する労働環境については、派遣労働に代表される非正規雇用が急速に拡大し、労働者の権益が崩壊していると懸念されてきました。そのような環境に身を置く中で、いかに自ら安全・安心社会を構築するかという「自衛」も提唱され、それを実践するためには、社会を分析する力を養うことが大切です。具体的な方法の一つとしては、普段私たちが見聞きする様々な統計データを、批判的に考察することが挙げられます。本発表では、政府が公表する資料を題材として、その批判的検証を試みます。これによって、社会分析力の養成につながる手法を提示し、政府の見解と国民生活の実態とのブレにも迫りたいと思います。

11/27 FRI 12:20-12:50

菅原 悠治 [経済学研究科 / 博士課程後期課程]

### ベーシック・インカムという政策とその 規範理念

この夏、オランダはユトレヒトで2016年からある実験が行われるという発表がありました。また、スイスでもその導入に関する国民投票が行われる見通しで、今後は日本においてもより目にする機会が増えると考えられる新しい政策構想、それがベーシック・インカムです。ベーシック・インカムの一般的な定義は「(1)その人が進んで働く気がなくとも、(2)その人が裕福であるか貧しいかにかかわらず、(3)その人が誰と一緒に住んでいようとも、(4)その人がその国のどこに住んでいようとも、社会の完全な成員すべてに対して政府から支払われる所得」とされています。つまり、ベーシック・インカムが実施された場合、その国民すべての一人一人に対して一定額が給付されることとなります。上述したオランダにおける実験は、対象者を絞ったものとなる見通しです。しかし、そこから得られるデータは今後のベーシック・インカム研究ひいては、福祉政策研究の試金石となりえると、多くの人々から注目されています。そういった中で、今回は、ベーシック・インカムとはどういった政策なのかとともに、ベーシック・インカムという政策構想が内包する規範理念に関する研究を紹介いたします。

12/04 FRI 12:20-12:50

内田 慎哉 [理工学部環境システム工学科 / 講師]

### 非接触衝撃弾性波法によるあと施工アンカーボルトの健全度非破壊評価手法

トンネルの天井板や大型道路標識などの重量構造物を吊り下げ支持するために用いられる接着系あと施工アンカーを適切に維持管理するための技術開発は急務となっています。本発表では、磁気的方法によりアンカーボルトを加振し、レーザードップラー振動計によりボルトの振動を受信する方法(非接触衝撃弾性波法)から、ボルト固着部の接着剤の充填状況を非破壊で評価する新しい手法について紹介いたします。